



専攻科だより

第28号

北海道富良野緑峰高等学校
農業特別専攻科
平成30年3月2日発行



贈ることば

校長 鎌田 到

専攻科修了おめでとうございます。農業従事の傍らでの学習で苦勞の多かったことと思います。この2年間の本校での学習を今後の農業経営に活かしてください。

私から、修了生の皆さんのご健勝と今後のご活躍を祈念し、「十少十多の健康訓」という言葉を贈ります。これは、細菌学者・医師である二木謙三(ふたき けんぞう 1873-1966)博士が健康の維持のために唱えたものです。

- 1 食うこと少なくして、嘔むことを多くせよ。
- 2 乗ること少なくして、歩くことを多くせよ。
- 3 着ること少なくして、浴びることを多くせよ。(注=清潔の意)
- 4 悶ゆること少なくして、働くことを多くせよ。(注=悶ゆる→悩む)
- 5 怠けること少なくして、学ぶことを多くせよ。
- 6 語ること少なくして、聞くことを多くせよ。
- 7 怒ること少なくして、笑うこと多くせよ。
- 8 言うこと少なくして、行うこと多くせよ。
- 9 取ること少なくして、与えること多くせよ。
- 10 責めること少なくして、褒めること多くせよ。

健全なる精神は健全なる身体に宿るというように、体の健康がなければ、精神が健全でしっかりと仕事をすることはできません。皆さんの更なる飛躍を願っています。

2年間を振り返って

修了生より



佐久間あかね

お米は、八十八と書きます。農家さんが一粒一粒丹精を込めて作ってくれます。ですから、感謝を込めて食べなさい。小さな頃から言われました。常に農家さんには、畏敬の念を持っています。そんな私が、専攻科で2年間勉強しました。年長者ゆえ、学校の授業も次元の違ったことばかりでした。特に今では、あたりまえの情報処理が、昭和世代の自分には全く経験がなく面食らいました。授業で、プロジェクト発表会の話のを伺い、早々に卒業できるか心配したくらいです。ただ、諸先生の情熱と、優しいご指導により、あんなに心配だったプロジェクトも無事終わることができ、晴れて修了の運びとなりました。また、肝心の農業技術もプロの仕事、様々な講師の方による指導、先生方の親身な授業などで様々な知識・技術を得ることができました。市、JAなど関係者の方々にも大変お世話になり、いつか恩返しができると思っています。当分、緑峰高校に足を向けて寝ることはできないと思っています。“びび！専攻科”ありがとうございました。



西尾 淳

農業をやろうと考え、縁があつて上富良野町の農家さんで研修を始めることができました。その研修先で富良野緑峰高等学校の農業特別専攻科を教えていただき、こうして、2年間いろいろと経験をさせてもらいました。オーストラリアでの海外研修や埼玉県への道外研修の他、各種視察など、個人では学べないことを経験できたことは自分の大きな糧となりました。この経験を、これからの経営に生かしていきたいと考えています。



増田 和樹

一年生はあっという間。学校生活や勉学面も少し見えてきたなと思った頃。いざ二年生になるとFF会の会長となり、人をまとめ、いろんなことを企画する立場となりました。別海高校の専攻科との交流会や学校祭などたくさんの人を巻き込んで行う行事は、自己満足かもしれませんが、貴重な経験となりました。専攻科の学生が年々減少しており、さみしいところもありますが、ここでの学びは大変貴重なものであったと思います。最後に、「専攻科」。この言葉は、魔法の言葉として有意義な2年間に私に与えてくれるものでした。

平成29年度 活動報告



4月【入学式】



5月【学生研修会】



6月【道央研修会】



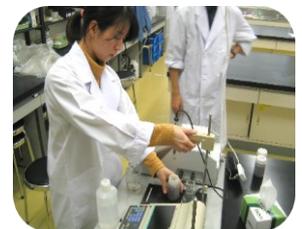
7月【埼玉農大交流会】



7月【農事視察研修】



10月【埼玉研修】



11月【土壌分析】



1月【海外研修】



1月【ニンニク意見交換】



2月【経営強化ゼミ】



2月【自治会レク】